

市政に対する 一般質問

6月定例会では22人の議員が市政全般について質問を行いました。
※一般質問は、議案に関係なく、市の行政事務について市長および執行機関に質問することで、越谷市議会では1人1時間を目途に行われます。



「広報紙」のポスティングについて



日本維新の会

小林 成好 議員

問 モデル事業はどのようなものか。
市長 「広報こしがや」はさまざまな情報発信を期待されており、主に自治会の協力の下に各世帯に配布しているが自治会加入率が60%を下回り配布率が減少傾向にある。そこで、かねてより要望のあった南越谷地区をモデル地区として約1万4000世帯を対象に民間事業者等による全戸ポスティングを、8月から10月までの期間で行い、アンケート等により検証していく。



特別支援保育について



越谷市民ネットワーク

清水 泉 議員

問 市では保育施設などへの入所の待機児童は解消しつつあるものの、発達の遅れなどで配慮が必要な特別支援保育の申し込みが増加している。保育士に対する支援の取り組みは。
市長 特別支援保育に従事している保育士を対象として専門的な知識を有する者が助言、指導を行う保育所等発達支援巡回事業を市内の私立保育園、認定こども園、地域型保育事業へ年2回実施している。



中学校部活動地域移行について



NEXT越谷

武藤 智 議員

問 中学校部活動地域移行の考えは。
教育長 令和7年3月に越谷市地域クラブ活動推進計画を策定した。部活動地域移行を進めることで、生徒が専門的な指導を受けられることによる技術力の向上や、教員が土日の指導から外れることによる負担軽減につながる一方、運営団体、実施主体の体制整備や財政基盤整備、指導者の質の保障、人員の確保、大会やコンクールの運営のあり方などに課題があると捉えている。



公園のあり方について



こしがや無所属の会

斎藤 豪人 議員

問 公園でのボール遊びについて、「〇〇は禁止」などの一律的な表現ではなく、包括的な看板設置に切り替えることは、公園の多様な利用を支えるうえでも、取り組みを進めるべきだと思うが、検討する考えは。
市長 近隣と地域とのご理解を得たうえで、ご要望があれば、看板の文言を〇〇禁止的な内容ではなく、「みんなの公園です。危ない遊びはやめましょう」といった啓発文に変えることも検討する。



公園でボール遊びをする子どもたち



遠方から通う児童に対する暑さ対策について



NEXT越谷

横井 聖美 議員

問 遠方から通う児童に対する暑さ対策に関する会議は今まで開かれたのか。
市長 暑さの議題を名目にした、私と教育委員会の会議はない。
問 3.5キロメートルの距離を徒歩で通学している児童を、徒歩ではない方法で通学することも視野に入れる考えは。
市長 今後学校の統廃合等もあるかもしれない、そういった場合には必要なこともある。状況を見ながらやっていく。



小中学校の熱中症「見える化」対策について



自由民主党越谷市議団

小林 豊代子 議員

問 黒球付熱中症計を児童生徒が活動する場所に設置することで児童生徒・教員が共に意識することにより、熱中症予防対策につながると考えるが。
教育長 児童生徒が熱中症に対して自主的に判断し、対応出来るよう、暑さ指数測定装置の設置・活用方法など、近隣市町の動向等を踏まえて調査研究をしていく。



バス利用者利便性向上について



公明党越谷市議団

藤部 徳治 議員

問 大袋地区センター・公民館の環境整備におけるバスの増便の考えは。
市長 公共交通利用者の減少や、バス運転手の人材不足などにより、増便などの要望についての対応は難しいと考える。
問 大道循環バスの一部コースの変更を検討する考えは。
市長 大道循環バスの経路変更については、利用者の状況やニーズを把握したうえで、バス事業者と協議、検討していく。



今後の市政運営に向けた決意について



立憲民主党越谷市議団

後藤 孝江 議員

問 1期4年間の経験を踏まえた今後の市政運営に向けた決意は。
市長 現在策定中の第5次越谷市総合振興計画後期基本計画を着実に推進することに加え、私が掲げる政策の三本柱をさらに深化させ、強固なものにしていくことが、越谷市の明るい未来につながると確信している。そのため、次期に向けて、引き続き市政を担当させていただき、越谷市のさらなる発展に粉骨砕身取り組んでいきたい。



共生社会の実現を推進する取り組みについて



公明党越谷市議団

久保田 茂 議員

問 認知症の人に寄り添った対応とさらなる理解を深めるために、市のイベントなどでARゴーグルを使って認知症の人の疑似体験の機会を設ける考えは。
市長 ARゴーグルは認知症の人が日常で感じている不安や困難を体験することで、認知症のさらなる理解と共感ができる有効な手段である。市のイベント等での活用に向けては、複数の事業者にヒアリングを行い、開催要件を整理して検討を進める。



小中学校のバックネット・防球ネット等について



立憲民主党越谷市議団

小口 高寛 議員

問 グラウンドの外にボールが飛球をして近隣に被害を与えないための対処方法は。
教育長 安全点検および日常点検を行い、防球ネット等に破損があった場合は、いち早く報告を受けるなど、小中学校と連絡を密にし、早急な修繕箇所の発見と修繕を行っていく。また、ボールのグラウンド外への飛び出しを防ぐことができない場合は、防球ネットの更新工事を含めた対策を検討していく。



ポンプ施設の更新状況について



NEXT越谷

浅古 高志 議員

問 現在の越谷市のポンプ施設の更新状況は。
市長 本市のポンプ施設は、昭和60年代以降に整備された。今後多くの施設が更新時期を迎え、多額の費用を要する。今年度は、七左エ門川排水機場のポンプの増強と電源の多重化を図る工事に着手する。大間野排水機場も同様に商用電源化と電源の多重化を進めていく。引き続き計画的かつ効果的にポンプ施設の更新を実施していく。